

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当第3四半期決算における当社を取り巻く市場環境は、素材価格高騰や半導体不足が継続するなか、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復基調が継続し、製造業の設備投資が堅調に推移しました。一部製品の生産において部材調達難の影響を受けましたが、代替材料の採用や複数社購買の拡大などのサプライチェーンの最適化により、顧客の旺盛な需要に対応するとともに、原価低減を推進し、対前年で増収増益を達成、営業利益、純利益ともに第3四半期累計としては過去最高を更新しました。

通期業績予想は足元の状況を踏まえ上方修正し、営業利益目標を720億円に引き上げました。2023年度中期経営計画の目標である営業利益率8%の2年前倒しの達成を目指します。

また、2024年度以降の更なる成長に向け、電気自動車（xEV）の消費電力量を改善するSiCパワー半導体の設備投資を決定しました。急拡大する自動車の電動化ニーズに応えるとともに、今後もエネルギー・環境事業を通じてSDGsの発展と脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

新型コロナウイルス変異型の感染者数が急拡大するなか、医療従事者の皆様をはじめ、経済・社会活動を回すために日々奔走されています全ての方々に感謝いたします。

新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束、ならびに株主の皆様のご安全・ご健康を心より祈念いたします。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年2月

富士電機株式会社
代表取締役社長




第3四半期累計決算（4～12月）

対前年増収増益。営業利益、純利益はともに過去最高を更新。

(単位:億円)

| | 2020年度 実績 | 2021年度 実績 | 増減 |
|------|--------------|--------------|-----|
| 売上高 | 5,613 | 6,200 | 587 |
| 営業利益 | 141 | 327 | 186 |
| 純利益 | △40 | 254 | 294 |

売上高

発電プラントを除いたセグメントで増収。

生産の自動化に加え、新規設備投資の需要増により活況な工作機械関連、および電気自動車（xEV）向けを中心に、器具、インバータなどのFA関連コンポーネント、半導体の需要が堅調に推移。

営業利益

素材価格高騰や半導体の生産能力増強投資などに伴う固定費増により減益影響を受けたものの、売上・生産高の増加に加え、原価低減の推進や製品価格の値上げなどにより増益。

純利益

営業利益の改善に加え、前年同期の製品不具合対策費計上の影響や、政策保有株式の縮減による投資有価証券売却益の計上などにより増益。

(単位:億円)

| セグメント別 | 2020年度 実績 | | 2021年度 実績 | | 増減 | |
|-----------------|--------------|------|--------------|------|-----|------|
| | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 |
| パワエレ エネルギー | 1,363 | 50 | 1,621 | 92 | 257 | 42 |
| パワエレ インダストリー | 2,016 | 23 | 2,137 | 66 | 121 | 43 |
| 半導体 | 1,123 | 114 | 1,294 | 192 | 171 | 77 |
| 発電プラント | 508 | 18 | 443 | △11 | △65 | △29 |
| 食品流通 | 541 | △44 | 653 | 16 | 112 | 60 |
| その他 | 384 | 12 | 394 | 17 | 10 | 5 |
| 消去または全社 | △323 | △31 | △344 | △43 | △20 | △12 |
| 合計 | 5,613 | 141 | 6,200 | 327 | 587 | 186 |

概況

工作機械関連の需要が堅調な器具、オートメーション事業を主因として増収増益。施設・電源システムもデータセンターおよび半導体メーカー向け案件で伸長。

電気自動車（xEV）向けおよび工作機械関連の需要が堅調な産業分野向けパワー半導体の物量増により増収増益。

前年同期の再生可能エネルギーの大口案件影響などにより減収減益。

自販機、店舗流通における顧客の設備投資が回復に転じ、需要増により増収。物量増効果に加え事業構造改革による固定費削減などにより増益。

通期業績予想

通期業績予想を上方修正。
営業利益720億円、営業利益率8%を計画。

対前年

売上高は241億円増収の9,000億円を計画。第3四半期までの堅調な需要増を背景とした、電気自動車(xEV)向けおよび産業分野向け半導体、器具、オートメーション事業、食品流通の物量増により増収。

営業利益は234億円増益の720億円を計画。半導体の生産能力増強に伴う固定費増があるものの、物量増を主因として増益。

対10/28予想

売上高は器具で需要増を見込むも、ITソリューションの減収により10/28予想の9,000億円を据え置き。

営業利益は器具、半導体の物量増、固定費削減、為替影響などにより50億円増益の720億円を計画。

(単位:億円)

| | 2020年度 実績 | 2021年度 10/28予想 | 2021年度 1/27予想 | 対前年 増減 | 対10/28予想 増減 | |
|-----------------|---------------|-------------------|------------------|-----------|----------------|----|
| | | | | | 増減率 | 増減 |
| 売上高 | 8,759 | 9,000 | 9,000 | 241 | +3% | 0 |
| 営業利益 (営業利益率) | 486 (5.5%) | 670 (7.4%) | 720 (8.0%) | 234 | +48% | 50 |
| 純利益 | 419 | 500 | 525 | 106 | +25% | 25 |

| 第4四半期前提為替レート | |
|--------------|-------|
| 1ドル | 107円 |
| 1ユーロ | 127円 |
| 1人民元 | 16.5円 |

TOPICS SiCパワー半導体の増産に向けた設備投資を決定

富士電機のSiCパワー半導体の取り組み

2013年に業界に先駆けて松本工場に6インチウエハ前工程生産ラインを新設。

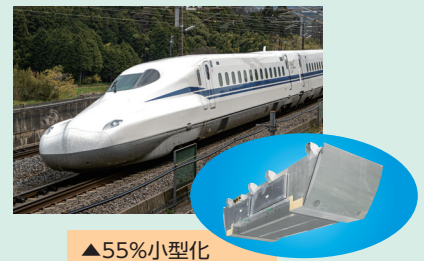
高効率化のメリットが大きいインバータや新幹線駆動システムの主変換装置、パワーコンディショナ、UPS(無停電電源装置)などの分野から適用範囲を拡大してきました。



同一サイズで
43%容量増※

インバータ

※315kW機と450kW機の比較



▲55%小型化
▲約600kg軽量化※

主変換装置

※N700系とN700S系の比較

SiCパワー半導体の市場拡大を背景に増産投資

脱炭素化に向けて、走行時に温室効果ガスを排出しない電気自動車(xEV)の普及が加速していますが、蓄電池の価格や航続距離が課題となっています。SiCパワー半導体をモータ駆動用のインバータに搭載することで消費電力量を低減し、蓄電池の容量低減と航続距離の改善に貢献します。

富士電機津軽セミコンダクタ(株)に、2024年の量産開始に向けたSiCの前工程生産設備の投資を決定しました。市場の拡大が見込まれる電気自動車(xEV)向けにも適用範囲を広げ、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

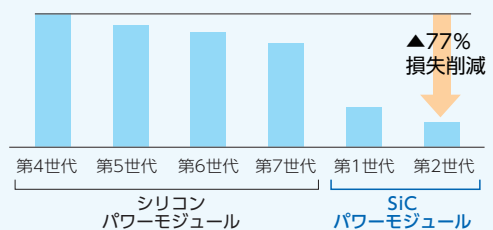


富士電機津軽セミコンダクタ(株)
(青森県五所川原市)

SiC (Silicon Carbide : 炭化ケイ素) とは

次世代のパワー半導体材料。現在主流のシリコンに比べ、高効率、高速動作、高温動作、高耐圧など優れた特性を持ち、搭載製品の大幅な省エネ、小型化、軽量化を実現します。

インバータ駆動時の損失電力(規格値)



「親会社株主に帰属する当期純損益」は、本報告書においては「純利益」と表記しております。本報告書の将来についての戦略などに関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があり、当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。